

..... 編集後記 .....

◆つくばでは、11月の末からメタセコイアや銀杏が急に色付き、折りからの強風で秋の風情を感じさせる間もなく、雪のように降り積もりました。こぶしのつぼみも今にも咲きそうなほど膨らんでいます。筑波の冬はどこにいったのでしょうか？この調子では、来年の春は大雪が降るのではないかと案じておりますが、「君がため、春の野に出でて、若菜摘む、我が衣手に、雪は降りつつ」と言うのも風流かもしれません。もっとも、豪雪地域の人々から雪の大変さを知らないのかとお叱りを受けるかもしれませんが、皆さんの所はどうですか。

◆初等教育における理科離れが問題にされるようになってかなりの時間が経っています。最近では、新聞報道でも、有識者の討論会の記事も見受けられますが、抜本的な解決策は提案されていないように思われます。10月に、鳥取県の高校の先生の訪問を受けました。用件はその高校では理科系の大学への進学を希望する生徒が200人程度いるが、専門分野を決めかねている。ついては、来年の10月に全員を引率して筑波の研究所訪問を計画したいので、地学希望者を受け入れてもらえないかというものでした。申し入れに対しては快諾しておきましたが、理科教育が単

なる知識の伝達に終わっていることを痛感させられました。朗報としては、この学校では地学の授業が復活したとのこと。多くの学校でそうなれば良いのですが。

◆理科離れの解決策の基本は、いかに子供達を自然の中に連れ出すかだと思います。このような状況もあり、今月号は博物館をめぐる様々な問題の特集してお送りします。本特集の中で述べられているように、近年、自然史系の博物館が多数開設されました。バブルが弾ける前の善行かもしれません。博物館は社会の人々に自然に親しみを感じてもらう重要な窓口だと思います。しかしながら、博物館の理想と現実の間には解決しなければならない多くの問題があるようです。今後、真鍋氏の記事の中にあるように、「博物館の存在価値をアピールするために、より社会サービシ的な活動の増加が時代の要請である」とするならば専門家だけの議論では解決しないでしょう。

◆この特集を読まれた方は、是非近く博物館に向向きの提言を為さってください。あなたの知識や経験もきつと役立つことができると思います。皆さんの参加で博物館で孤軍奮闘している人達が元気づけられると思います。  
(有田正史)

お知らせ

98年11月号口絵に掲載の石灰石は石灰石鉱山において採取したものを含まますが、これは鉱山側の特別なご厚意により採取許可をいただいたものです。一般の方の鉱山の立ち入りおよび鉱山でのサンプル採取はできません。

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

幹事：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

委員：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第532号	1998年	12月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1998年12月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8	〒102-0073	
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 カゲヤマ		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。